



第24回自治労青年女性中央大交流集会

# 実行委員会ニュース

第 10 号  
2024年 7月 4日

発行責任者  
第24回自治労青年  
女性中央大交流  
集会実行委員会

東京都千代田区  
六番町 1  
☎03-3263-0271

## 社会を変えるために声をあげよう

### 全国の仲間と「団結の力」を実感

閉会集会

#### あるべき職場の姿へ

6年ぶりの山中湖へ、40県本部、1社保労連、1消防協、387単組、1、052人(女性322人)が結集しました。3日間、自分たちの実態を持ち寄って交流し、思いや運動を共有することで、職場の「アタリマエ」と思っていた働



雨天でもサテライトでつながる団結ガンパロー

2日目の職種別分散会では、生涯賃金に1,000万以上の格差がある、子の看護休暇の取得要件が違うなど、同じ自治体職員でも賃金労働条件が異なることに数多くの驚きが出されました。現場実態を共有し、現場の思いをもとに取り組む単組での実践は、現状を変えることにつながります。

#### 変えるには団結が不可欠

伊藤修さんの基調講演

### 決意表明

## 知り、学び、学びとで闘える



茨城県本部  
松兼 陵太さん

では、資本家と労働者は互いの利害から必然的に対立すること、資本当局側の合理化は労働者を搾取する「歪められた合理化」であることを見抜き、合理化を跳ね返さなければならぬという、本集会スローガンを共有しました。その上で、「社会全体の利益」(公益)が追求される社会をめざす必要性を確認しました。ソ連や現存の社会主義と称する国家の人権を蔑ろにするイメージから、抵抗感も率直な意見として出されました。「お互いが尊重され、大事にされる社会」の構築、「対等」「人権」「民主主義」が実質的に徹底される社会のあり方が求められます。

事前学習会で、事前アンケートを作成し、給与や休暇制度などを学ぶことで、「自分の置かれている職場環境、労働条件を確認す

ることが重要である」と再認識できた。「休暇が何日あるか分からない」「昇格年数、昇格後の号給が分からない」との仲間も多く、知らないがゆえに闘えない。実態から要求につながるため、給与制度など学習会を行い、青年独自要求を行っていく。

## 連帯検校 国の不当な介入許すな

今国会で審議された地方自治法改正案は、地方自治をないがしろにする改悪です。例えば、災害発生時に、現在は自治体同士の善意で職員を派遣していますが、改正後は国が派遣について地方に「指示」できる内容です。定額減税事務のように、国からおりてくる中身が曖昧な事務により、地方自治体の現場がどれだけ忙しく大変な状況か、皆さんの声と実態から改善を求め、これからも厳しく政府を追及していきます。



岸まきこ  
参議院議員

雨天のため、対面参加から急ぎよWEB対応をお願いしました。分散会では、岸さんへメッセージシールで思いとエールを送りました!

全国の仲間との学習と交流から、現状を変えるには、労働者の「団結が不可欠」だと実感しました。私たちは孤独でも1人でも



富山県本部  
入江 純子さん

1月に発生した能登半島地震を経験した仲間は、「平時から人間らしい働き方や生活が保障され、権利行使ができる環境でなければ、いざ非常時には、厳しい職場環境にさらなる負担のしかかり、人間らしい考え方も奪われ、みんな超勤申請しようとする」と訴えている。また、「平和」という土台が守られなければ、職場も生活も破壊される。そうさせないためにも、今の政治を変える必要がある。私たちの代弁者である自治労組織内参議院議員の「岸まきこ」さんを応援する必要を確認した。

# 進められる戦争の準備

## 武力で平和はつくれない 生活を守る平和経済を

閉会集会では、『戦争ができる国づくり』と自治体労働者」と題して、関東労働大学講師の菅原修一さんによる記念講演を受けました。



関東労働大学 講師  
菅原 修一さん

### 専守防衛を口実に

日本が専守防衛から戦争のできる国づくりに向かって大きく転換しつつあります。発展途上国・新興国と先進国の経済的力関係が、この約20年の

間に大きく変わりました。特に、中国を軍事的・経済的脅威とみなし、経済と安保を結びつけ、安保政策を経済の武器に使い、中国の経済発展を抑えこもうというスタンスが今の世界情勢にあります。戦争する国づくりの一環

今回の地方自治法改正は、中国の軍事的脅威に対抗するために。国が戦争できる国づくりをすすめ、地方自治体を戦争に協力させることにつながりかねません。それは太平洋戦争時の国家総動員体制の要の部分と言えま

### 労働者としての視点を

日本が戦争に至った原因には、貧困問題があります。資本家が労働者を搾取する経済体制ではなく、労働者が豊かでゆとりのある生活を実現する社会に変えていくことが、何よりも平和のもとになると思います。その

一人ひとりが労働組合に結集し、仲間との学習・討論をとおして、「あるべき社会」を展望していくことが大切です。賃金労働条件の維持向上、雇用の安定が、労働

組合の目的ですが、それと平和な社会をつくるということは、切り離せない課題です。今の経済や社会情勢について、いろんな角度から見て、その背景には何があるのかを考え、お互いが考えていることを率直に意見交換や学習し合う場を、単組に戻り仲間とつくる

## 分散会報告

### 子育て支援部門

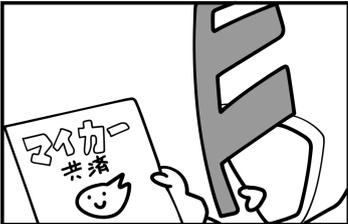
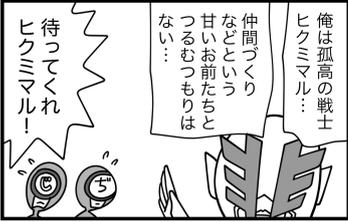
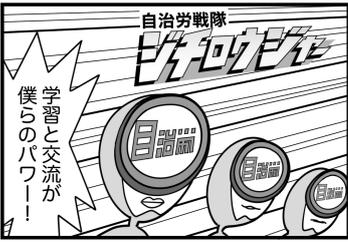


徳島県本部  
宮久保 真由美さん

今、貧困やいろいろな事情を抱える子どもや保護者が増え、それを支えられたいと思っている。保育士は子どもが好きで責任感も強いが、労務強化で人間

らしい働き方ができていない実態が多くある。慢性的な不払い残業、昼休憩や年休が取れないなど、仕方ないとアキラメずに、適正な時間外申請や、休暇を取りやすくするため予定表を貼り出したり、休憩室の要求など仲間の実践に学び、具体的な要求を行い、だれもが大事にされる社会、保育士になりた

## やまなかちゃん



## 仲間のマエ 事後アンケートより 仲間とともに一步踏み出そう！

### ●職種別反合理化分散会に参加して

- ・公務職場と政治の関わりを感じるが、今の政治は、自分たちの職場実態や生活の苦しさは何も考えられていないと感じた。
- ・マイナなど国からの指示が遅く、振り回されることがあった。
- ・全国の仲間と討論することで多角的に見ることができた。変えられないと思っていたことが、変えられる方法があると気づいた。
- ・職場の「自己責任」は、合理化のしわ寄せと再確認した。

### ●基調講演・記念講演を受けて

- ・経営者は労働者の費用をコストと捉え、利潤の最大化をめざす。
- ・格差が拡大し続ける資本主義から脱却しなければならない。
- ・「軍隊は住民を守らない」ということが印象的で、また同じことを繰り返そうとしている事は許せない。
- ・戦争では、自治体職員がまず第一に動員され、戦争に協力させられるのはイヤだ。

### ●職場・単組に戻って実践の決意

- ・退庁時間の記録を組合で取り組みたい。タイムカード導入も。
- ・残業の申請、適正な人員配置、子の看護休暇の拡大など課題だと感じたことを組合で話し、改善要求したい。